

ケアラー実態調査結果（速報）の概要について

1 調査の概要

（1）調査の目的

本県のケアラー本人の置かれている状況を把握するとともに、相談支援機関等における対応状況等を把握し、ケアラーへの支援策等を検討するための基礎資料とする。

（2）調査対象及び回答率

【調査対象及び回答率】

調査区分	対象	対象数	回答数	回答率
ケアラー本人	高齢者のケアラー	505	324	64.2%
	障害者のケアラー	714	181	25.4%
相談支援機関等	地域包括支援センター	101	90	89.1%
	基幹相談支援センター・ 障害者相談支援事業所	238	96	40.3%
	民生委員・児童委員	179	131	73.2%
医療機関		9	9	100.0%

※障害分野の回答率は、先行県と同様の傾向

（3）調査期間

令和5（2023）年6月9日から7月14日まで

（4）実施方法

郵送等による書面調査

2 結果（速報値）の概要

（1）ケアラー本人（高齢者のケアラー：n=324、障害者のケアラー：n=181）

【回答者の性別】

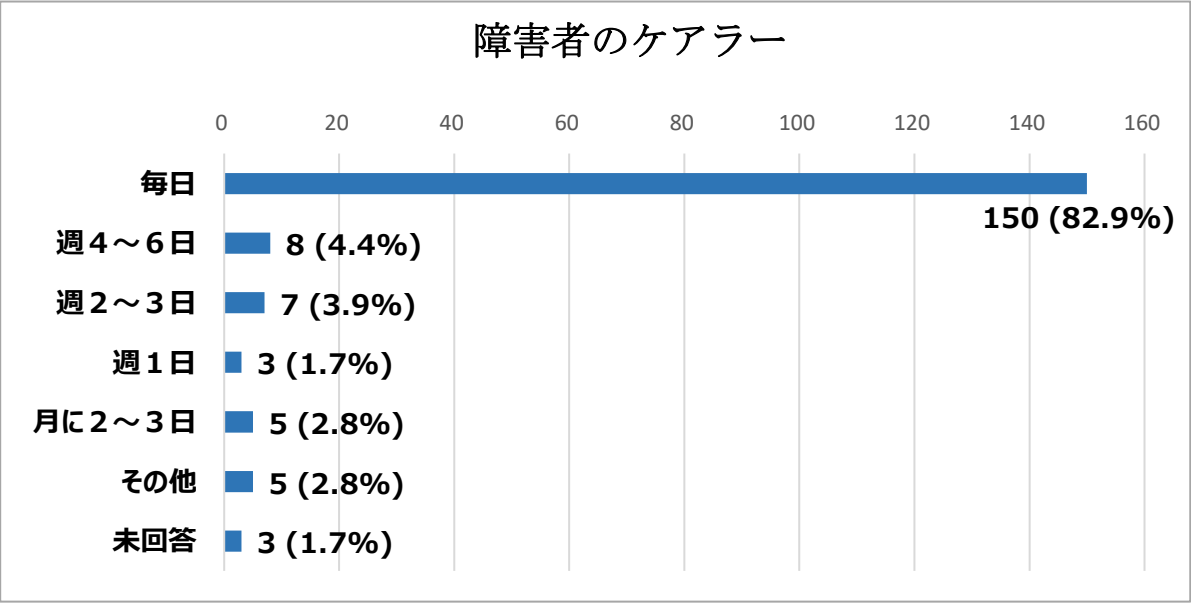
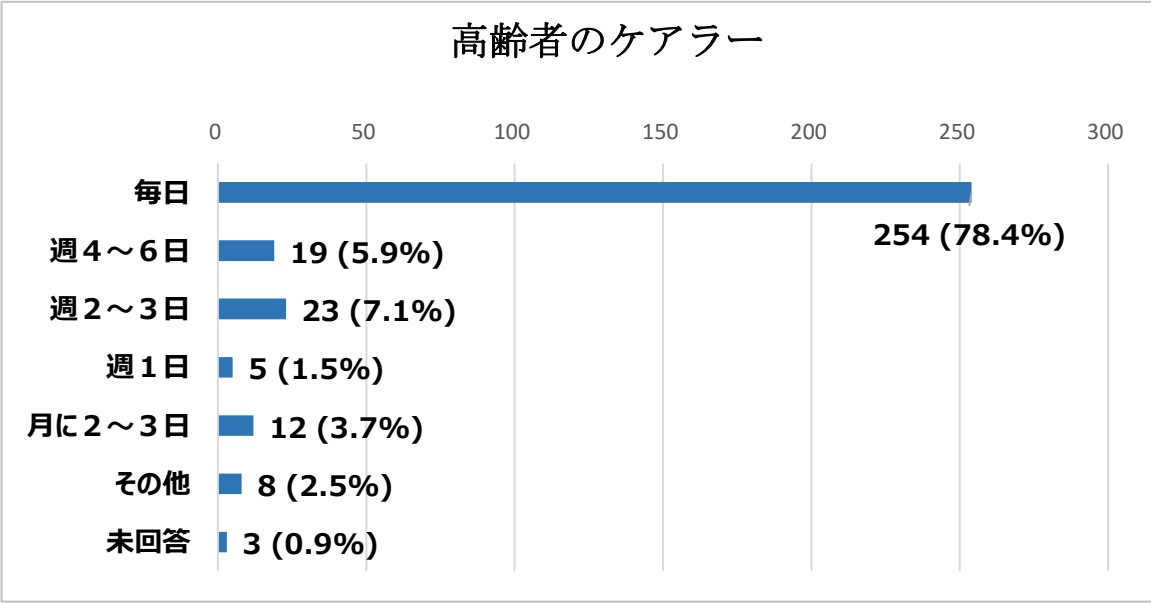
	男性	女性	回答しない	未回答	合計
高齢者の ケアラー	85 26.2%	236 72.8%	1 0.3%	2 0.6%	324 100.0%
障害者の ケアラー	28 15.5%	152 84.0%	0 0.0%	1 0.6%	181 100.0%
全体	113 22.4%	388 76.8%	1 0.2%	3 0.6%	505 100.0%

【回答者の年齢】

	18歳未満	18～29歳	30～49歳	50～64歳	65～74歳	75～84歳	85歳以上	未回答	合計
高齢者の ケアラー	0 0.0%	2 0.6%	20 6.2%	90 27.8%	83 25.6%	81 25.0%	47 14.5%	1 0.3%	324 100.0%
障害者の ケアラー	3 1.7%	6 3.3%	61 33.7%	70 38.7%	24 13.3%	13 7.2%	3 1.7%	1 0.6%	181 100.0%
全体	3 0.6%	8 1.6%	81 16.0%	160 31.7%	107 21.2%	94 18.6%	50 9.9%	2 0.4%	505 100.0%

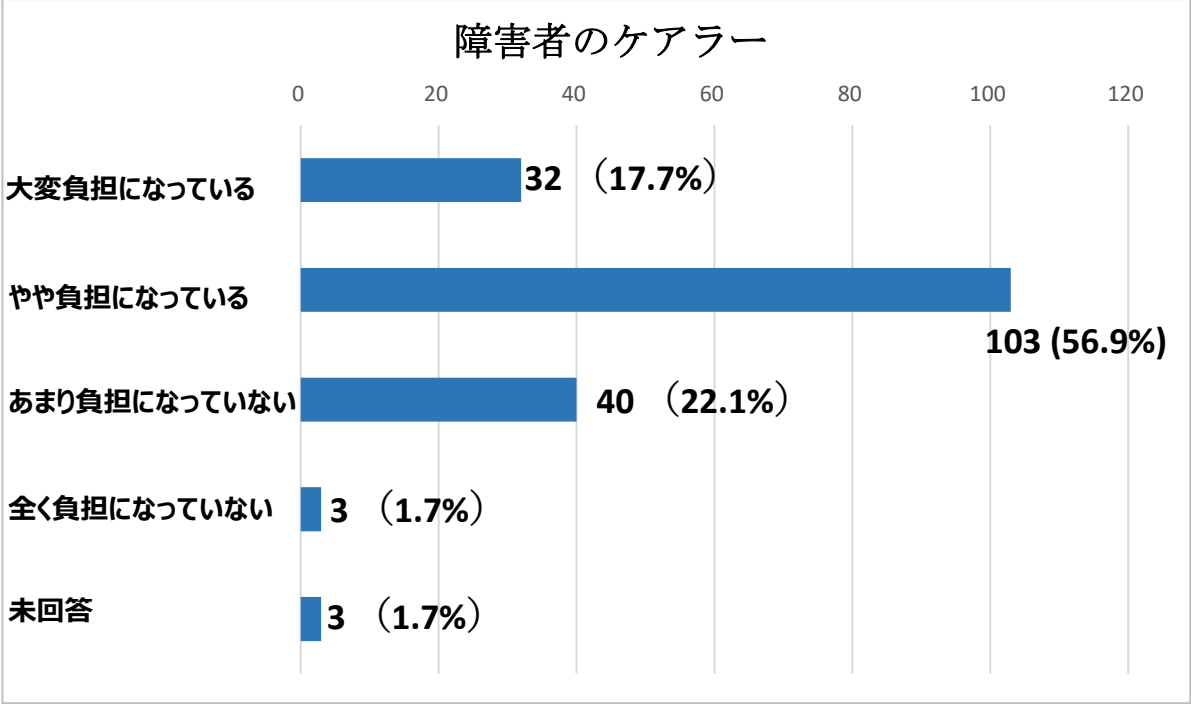
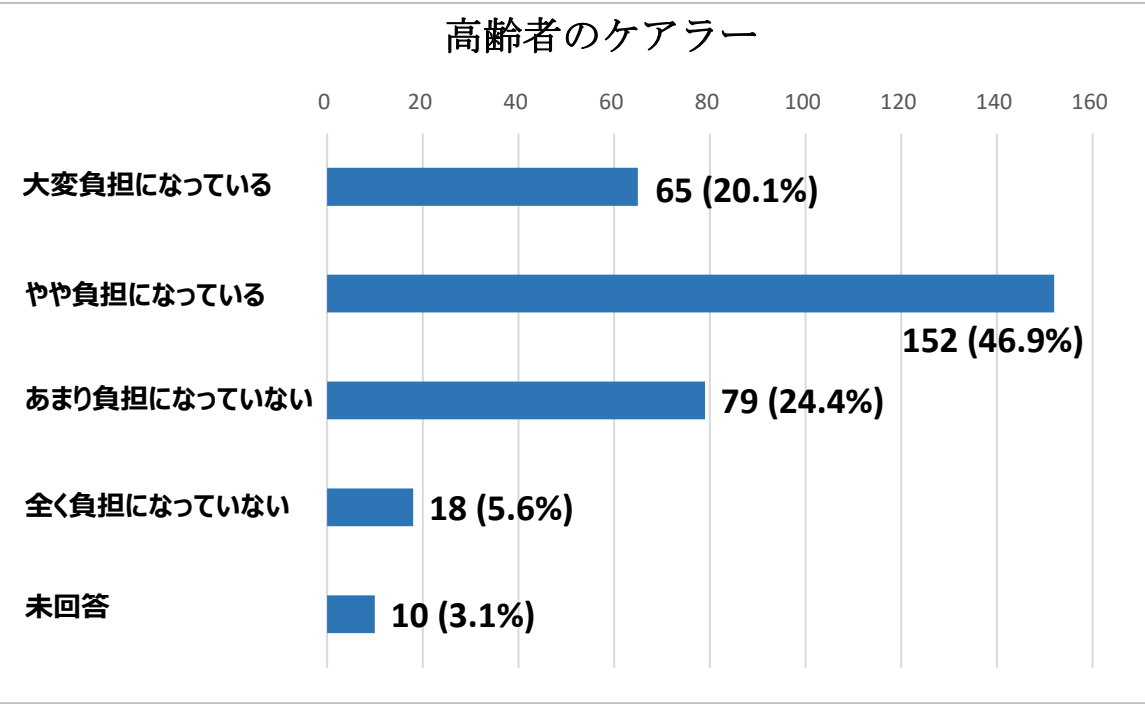
①ケアの頻度

高齢者、障害者のケアラーともに、「毎日」が最も多い。



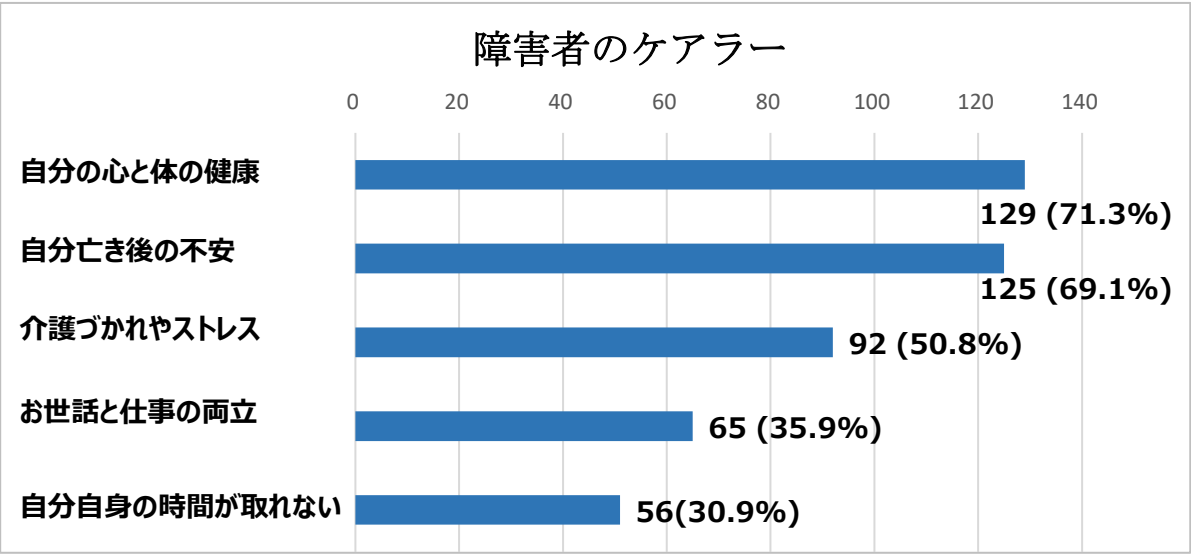
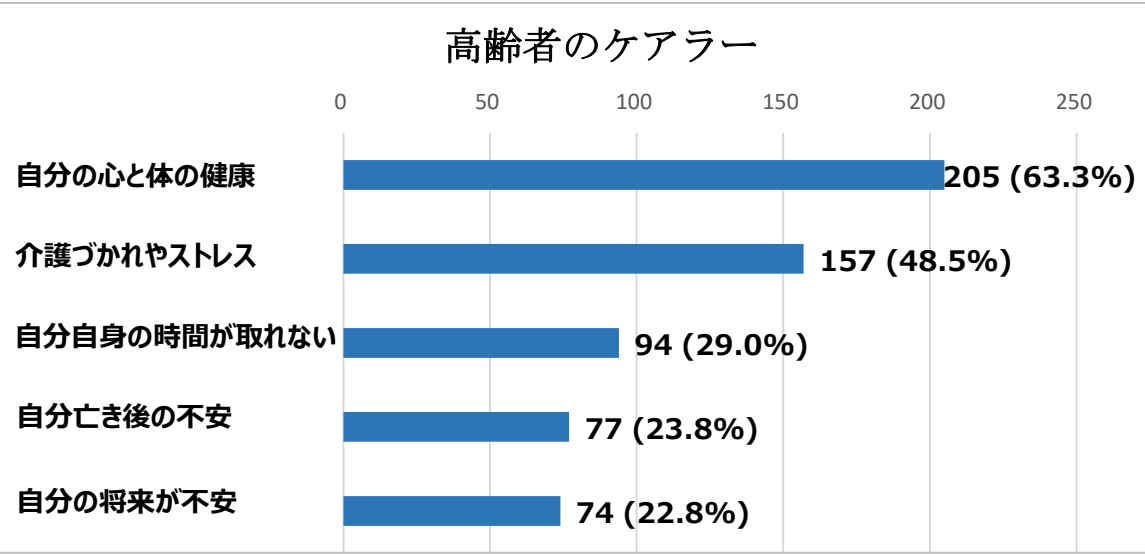
②お世話の負担感

高齢者、障害者のケアラーともに、「やや負担になっている」を最も多く選択している。



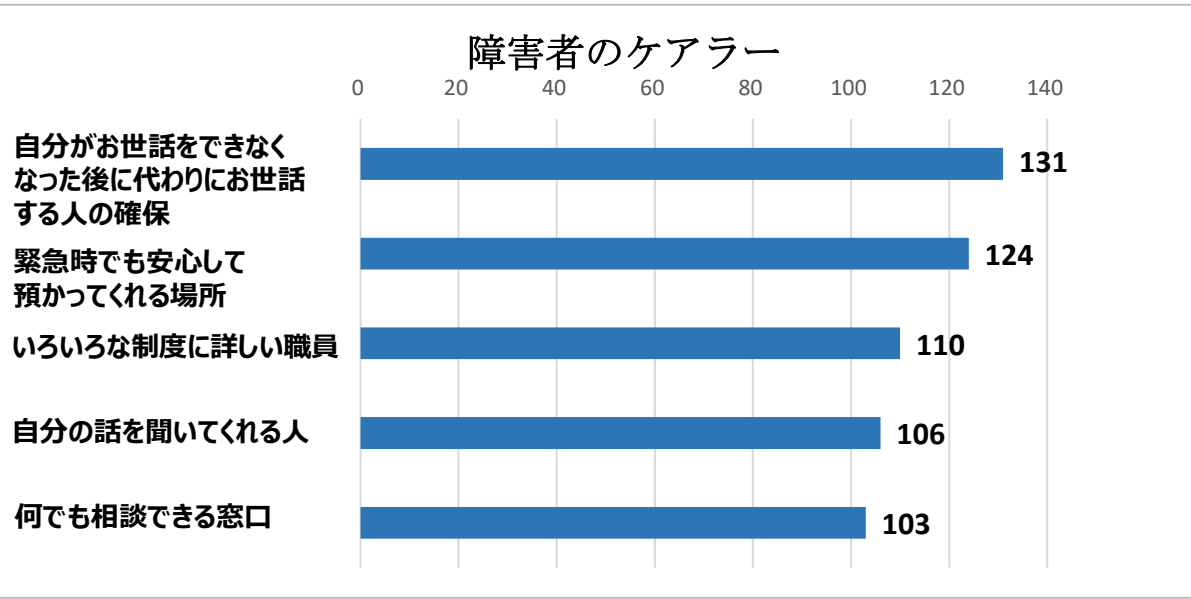
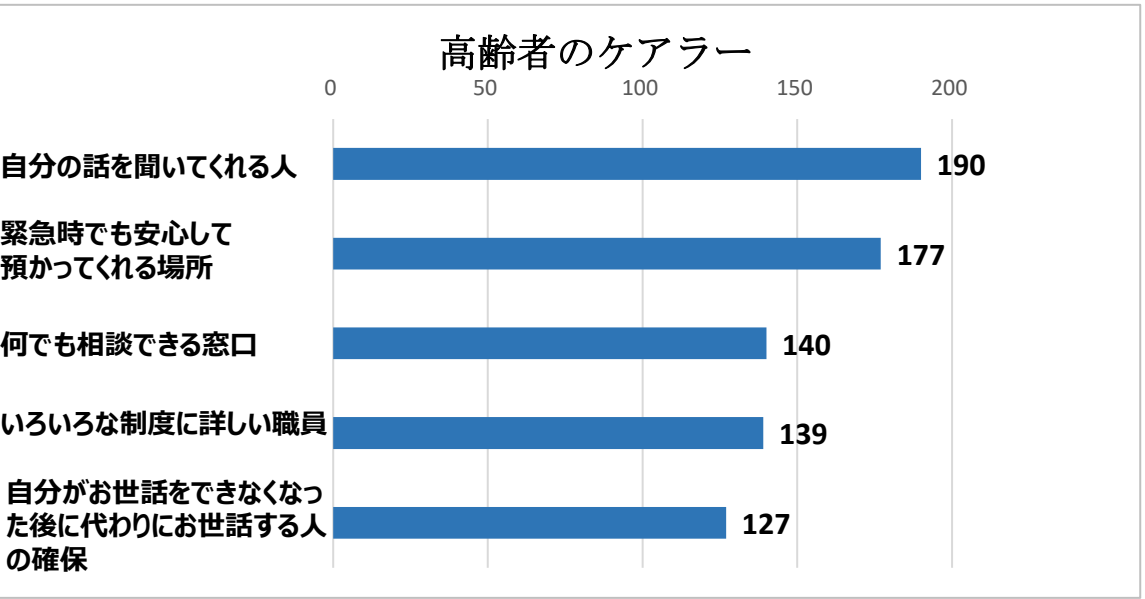
③ケアに関する悩み（ケアラー自身のこと）（複数回答）（上位5項目）

高齢者、障害者のケアラーともに、「自分の心と体の健康」に最も悩みを抱えている。



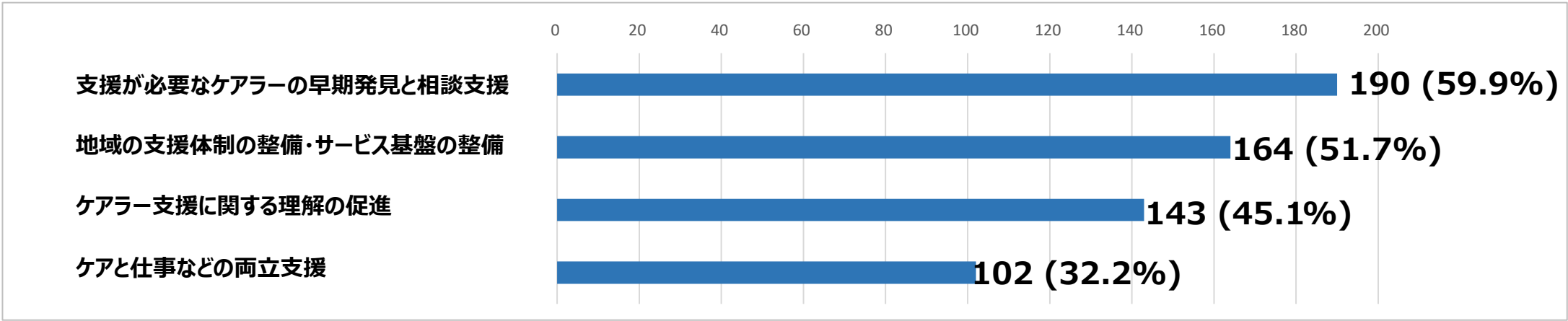
④ケアラーが求めている主な支援（複数回答）（上位5項目）

高齢者のケアラーは「自分の話を聞いてくれる人」、障害者のケアラーは「自分がお世話をできなくなった後に代わりにお世話する人の確保」を最も多く選択している。

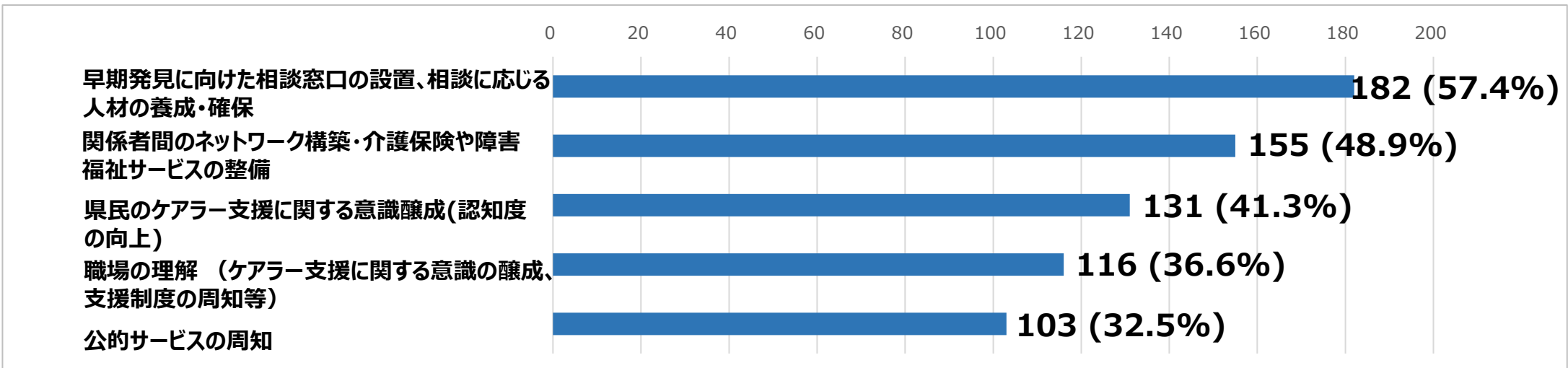


(2) 相談支援機関等 (n=317)

①ケアラー支援として必要と考える事項（複数回答）（その他、未回答を除く）
「支援が必要なケアラーの早期発見と相談支援」が最も多く選択されている。

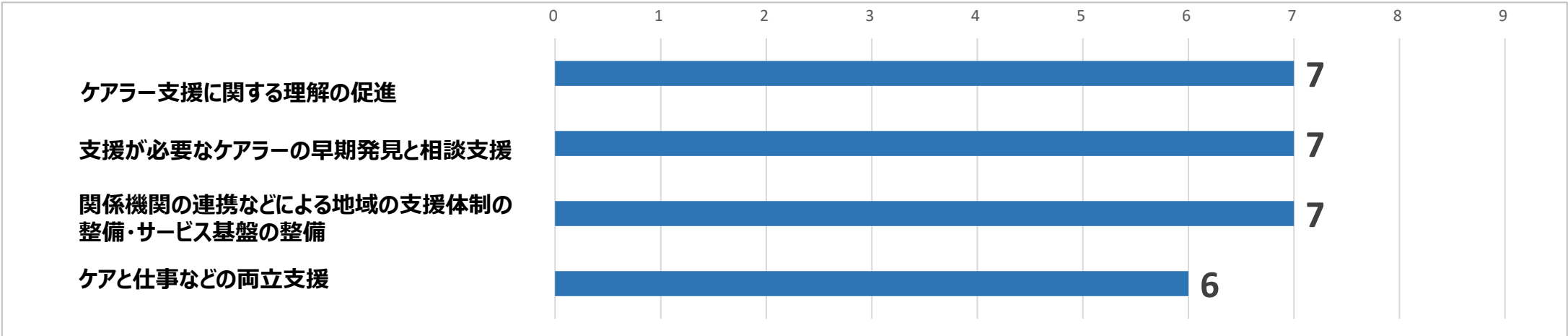


②①の支援を実現するため、県や市町が取り組むべき事項（複数回答）（その他、未回答を除く）
「早期発見に向けた相談窓口の設置、相談に応じる人材の養成・確保」が最も多く選択されている。



(3) 医療機関 (n=9)

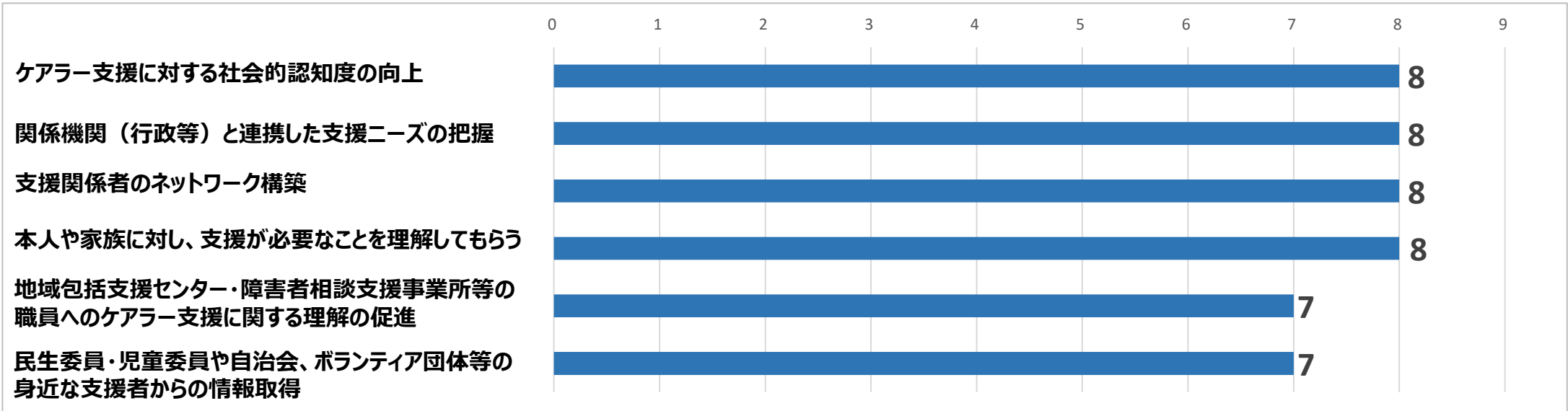
①ケアラーなどから相談を受けたことがあると回答した医療機関において、ケアラー支援として必要と考える事項（複数回答）（その他、未回答を除く）
支援に関する理解の促進、早期発見と相談支援、地域の支援体制の整備を、多くの医療機関が選択している。



「その他」の内容

- ・相談しやすい環境作り、わかりやすい相談窓口のインフォメーション

②支援に繋がりにくい家庭を支援に結びつけるために、地域や社会において、必要と考えること（複数回答）（その他、未回答を除く）
社会的認知度の向上、支援ニーズの把握、ネットワークの構築、本人や家族において支援が必要なことを理解してもらうことを、多くの医療機関が選択している。



「その他」の内容

- ・多職種連携によるアウトリーチ

(アウトリーチ：積極的に対象者のいる場所に出向いて働きかけること)